

令和 3 年度 学力調査結果の分析

【市・国調査】

清瀬市立清瀬第五中学校

教科	学年	観点別結果の分析	領域別結果の分析
国語	第 2 学年	「読む能力」のみ市町村、全国平均を共に下回る結果だった。中でも文学作品で登場人物の心情変化を捉える点に課題が見られた。心情表現を本文から読み解くことは出来ているので、今後は「心情変化」に重点を置く。場面が変わる際には前の場面の登場人物の様子と比較しながら考える習慣を身に付けられるような授業展開を行う。	観点別と同様「読むこと」のみ市町村、全国平均を共に下回る結果だった。説明文で文章の展開から要旨を捉えたり内容整理は出来ているが、文章構成や展開を捉えるといった文章を俯瞰的に見る力が不足していると分かった。本部構成の確認は単元冒頭にクラス全体で行うことが多かったので、一人で考える時間を増やす。本文読解の際はその都度文章全体のどの部分を扱っているのか明示し、読む際に気にかける習慣を身に付けさせる。
	第 3 学年	「読む能力」は都平均、全国平均をともに下回った。「話す・聞く能力」は全国平均こそ上回ったが、都平均を下回る結果となった。その他の観点は全体的に平均を上回っていた。「読む能力」に関しては、読書量などを見ても、読むのに時間がかかる生徒や、問われている内容が理解できない生徒が多々見られる。「文章を深く読む」ことや、「何を問われているのか」を的確に捉えられるような力を、授業のなかでの受け答えを通して育てていく。	「読むこと」に関しては、問題に対する着眼点や、文章全体を通して伝えたいことや重点的に表現されている部分をとらえられるように指導していく。「書くこと」は平均を上回っているため、文章で表現することはできるということがわかる。一方、「話すこと・聞くこと」の観点においては、効果的な発言の仕方や、話し合いを展開するにあたっての司会の役割など、知識として不足している部分もあるため、活動として話し合い活動を行う前に、どのような働きかけを行うべきか、どんな方法があるのかといったことを指導していく必要がある。
数学	第 2 学年	全ての領域において全国平均を上回っているが、知識理解と見方や考え方が若干プラスの度合いが低い。そのなかでも知識理解は 1 次方程式と資料の整理の分野が低いので基本的な知識を復習させていくようにする。また、見方や考え方の部分では論証に関する力が不十分なので、できるだけ演習を多く取り組ませるようにする。	関数分野の反比例の式をつくることと、比例の式からグラフをかくことができていないのでその点を補充していくようにする。また、累積度数について理解が不十分なのでその意味と活用する場面の理解を補充していくようにする。さらに、論証の数式を説明することができていないので論証に関する問題をできるだけ多く取り組ませていくようにする。
	第 3 学年	授業に真面目に粘り強く問題に取り組む生徒が多く、無回答率は全体的に、全国の平均より低いことにもつながっていると考えられる。観点別の結果については、観点④の正答率が比較的低く、問題を解くのに必要な知識を正確に理解できていない生徒が多いと考えられる。「関数」「相対度数」の意味など、しっかりと理解させる必要がある。	領域別の正答率は、都（全国）の平均をすべて上回っているが、資料の活用の領域が比較的正答率が低い。用語の意味をきちんと理解できていないことや長い文章を読み取って、要点を理解したり、グラフを読み取って、必要な情報を取り出したりすることが課題である。